

ウラジオストク滞在に関する報告について（2016年3月分）

1. 3月の実施事項及び行事等について

- ～11日 沿海地方政府にて行政研修
- 14日 中学校での日本についてのプレゼンテーション
- 17日 帰国

2. ロシア語学校について

ロシア語学校の授業は先月に続き「文法」「会話」「読解」「発音」の4科目に加え、新たに「文化」と「歴史」が加わりました。現在、私のクラスはアメリカ人2人、韓国人5人、中国人4人、日本人2人の計13人となっています。

また、引き続き個人授業を受講しており、週3回「文法」「読解」「手紙」「聞き取り」などの項目を重点的に学習しています。

3月は日本からの新しい留学生が入学し、日本人の数も増えてきました。また、新しいクラスが増設され、ベテランの先生などは初学習者のクラスなどを担当しているようです。

3. ウラジオストクの状況について

・天候

ウラジオストク市の3月は寒い時期が続いてはしますが、春の兆しも見られ、少しずつ暖かくなってきています。外の気温は氷点下が多いのですが、日中は0℃前後まで上がることもあり、道路上の雪や氷が溶け始めています。

・街の様子

3月に入り、少しずつ気温も上がり始め、日中は少し暖かく感じる日も出てきました。そのためか、大学構内の公園を散歩する人や街中の公園で遊ぶ子ども達の姿も見かけられるようになりました。ただ、溶け始めた雪や氷と土埃などが混じり、道路はととも汚くなっているため、外を歩くと汚れてしまうため雨靴やブーツなどを履いている人が多く見られます。また、海が凍っていたのですが、少しずつ溶け始め、場所によっては流水を見ることができます。海の氷が溶け始めると、いよいよ春が近づいてきたと感ぜられるそうです。



写真①：大学構内の公園の様子



写真②：海岸に溶けた氷が集まる様子

4. 沿海地方行政研修について

2月に引き続き行政研修を行っています。3月は投資エージェンシーで研修を行い、沿海地方の投資状況について勉強しました。沿海地方という立地上、対外的には日本、中国、韓国などからの投資を呼び込みたいとのことで、昨年10月から始まった自由港制度などの新しい経済制度のPR活動を行うなど、積極的に沿海地方へ投資を呼び込むためにさまざま試みを行っています。

3月11日をもって行政研修は終了しました。このように海外の行政機関での実務に触れることはなかなかできないので、とても良い経験になりました。日本とロシアの業務や組織、体制の違いなど多くの驚きとともに、面白いと思うことも多々あり、体験できたことを今後生かしていきたいと考えています。

5. 国際女性デーについて

3月8日は国際女性デーです。ロシアだけでなく世界的に大切にされている日ですが、日本ではまだまだ馴染みはありません。特にロシアは1917年3月8日（当時のロシアはユリウス暦で2月23日）、首都ペトログラードで女性労働者を中心としたデモが行われ、そこに男性労働者や兵士が加わり大規模な蜂起へと発展しました。そして、これが二月革命となり最終的には帝政崩壊へと至りました。そういったことからかなり女性の日は重要視されているようで、街の至る所でプレゼントや花が売られていました。ヨーロッパなどでは黄色い花やミモザが売られているのですが、ロシアではチューリップを送る習慣があるようでチューリップを街でたくさん見かけました。ちなみにロシアでは黄色の花は「別れ」を意味するらしく、恋人や夫婦の間では絶対に送ってはいけない花だそうです。ロシアでの女性の日に黄色の花を送るのは避けた方がいいかもしれません。

6. 小学校での日本紹介について

3月14日にウラジオストク市の第35番学校で日本を紹介するプレゼンテーションを行ってきました。

ロシア沿海地方のウラジオストク市は日本に近いこともあり、日本とはとても縁がある地域です。そのため、日本をよく知っていたり、訪問したことがあるという人も多くいます。しかし、実際にウラジオストク市で生活している日本人は100人前後だそうで、中国人や韓国人に比べて圧倒的に少ない人数にな

ります。そのため、現地のロシア人が普段見かけるアジア系の人は中国人や韓国人という場合が多いそうです。今回、そういった地域の子ども達に改めて日本を紹介するということを試みました。

当日のプレゼンテーションは小学校5年生を対象に行いました。日本の位置や人口、食や住居、文化などについて話しましたが、子ども達にとってはどれも新鮮だったようです。前述の通り、ウラジオストク市在住の日本人の数は多いとは言えず、実際に現地のロシア人が日本人に会う機会はそれほど多くありません。そのため、日本について日本人から聞くという経験は子ども達にとっては初めてだったようです。

今回の学校訪問は、ロシアの若い世代に日本や富山について紹介し、日露の交流に興味関心を持ってもらうことを目的に企画したものです。訪問先は、県国際課ブリツィナ・タチヤナ国際交流員（ウラジオストク市出身）の母校であり、ブリツィナ交流員の協力のもと、今回の訪問先や企画の内容について調整し、実施しました。



写真③：日本紹介を行ったクラスの子ども達